第2章 協働事業に関する自己評価

協働とは、区民及び区が、それぞれの果たすべき責務と役割を自覚しながら、対等の立場で相互に補完し、協力して取り組むことです。この章では、今後の協働における課題・改善・期待などを明らかにするために、本事業を「あだち協働ガイドライン」のステップ4による協働事業のフィードバックに沿って、区・公社・足立グリーンプロジェクトがそれぞれの立場で事業を振り返り評価します。

2-1 協働事業の評価

協働事業の評価の考え方は、以下の各協働主体が遵守すべき原則(協働の共通ルール)に基づいて行います。

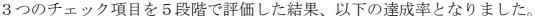
- ① 目的の共有の原則:協働の主体同士が協働事業の意義目的を理解し共有しあい、常に確認する姿勢を保つこと。
- ② 透明性の原則:協働情報の公開による協働機会の均等性や、協働プロセスの透明性・公平性・合理性が貫かれていること。
- ③ 相乗効果の原則:協働の主体同士が、お互いの特長を理解し生かしあい、 単独では成し得ない効果をあげること。
- ④ 対等性の原則:協働の主体同士が、上下関係も依存関係もない対等な立場で合意形成をし、それぞれの能力・規模に見合った義務と責任を果たすこと。

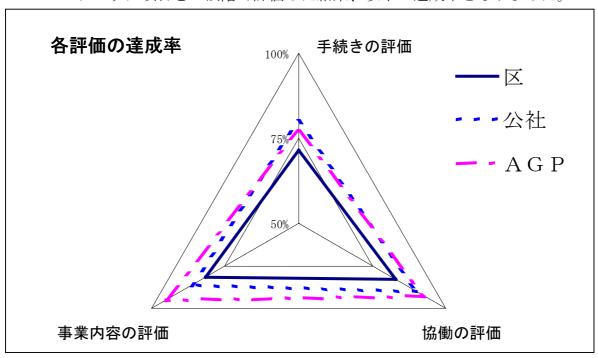
協働事業の評価の方法は、①手続の評価、②協働の評価、③事業内容の評価の3つのチェック項目で達成度を5段階で評価します。それぞれの評価をグラフにして協働の原則や内容でどの分野に対して努力が必要かなど協働の相手方同士で照らし合わせて確認します。

- ① 手続の評価:事業を進める上での手続きで、情報公開・手続きの適切性・事業を定期的に見直しているかの視点で評価するもの。
- ② 協働の評価:協働事業ならではの、連携方法・双方の特性を活かした高

い効果・役割分担・意思疎通・協働相手の育成・相手方の自立性をそこ なわずにできたかの視点で評価するもの。

③ 事業内容の評価:協働事業に限らず、事業の内容の適切性を評価するもので、施策への適合性・区民ニーズに応えていたか・目的と事業内容の合致・費用対効果を考慮した適切な事業規模だったかを評価するもの。





	手続きの評価	協働の評価	事業内容の評価
足立区まちづくり課	71. 42%	82.85%	81.53%
(財)足立区まちづくり公社	80.00%	90.00%	86. 15%
足立グリーンプロジェクト	77. 14%	92.85%	95. 38%

<点数評価コメント>

環境問題に取り組んだモデル事業でしたが、3項目とも結果は合格点と言えると思います。特に事業内容は、行政コストを要せず費用対効果はすばらしいものでした。また、優れたコーディネート力により全国的に関心を集めることができ、目標以上の成果がありました。

まちづくり課

	1	1	н .ь. -		1					1	^{まらわくりᇠ}
		STEP	足立区に おける協 働の	チェック項目				大←達成度→小			評点の理由・特記事項
			原則No			[達成できた]		[概ね達成できた]		[達成できなかった]	
		協働事業 の導入		竹	点数	5	4	3	2		公募による事業ではないので 評価項目に馴染まない。
				事業に関する情報は、誰にでもわ かりやすく提供されていたか		協働の可能性がある 事業の情報を早くか		相手が決まる前に 区報などの一部の		特定の団体しか事業を知り得ることがで	
1			2			ら多くの人の目に触 れるようにした		メディアには公表 した		きなかった	
•	1	協働事業 の導入		手続の評 協働の評 事業内容 の評価	点数	5	4	3	2	1	公募による事業ではないので 評価項目に馴染まない。
		12.47.		区があるテーマについての協働事 業提案を募集した際の、公募方法		毎回、事業を始める前に広く区民が事業		複数の対象団体等の可能性を検討し		公募も、複数の協働相手の可能性も検討	
2			<u> </u>	は適切であったか		を知り得るようにし た		た		しなかった	
	協	協働事業 の導入		手続の評 協働の評 事業内容 の評価		5	4	3	2	1	公募による事業ではないので 評価項目に馴染まない。
	働をは					選考体制、基準、対 象などを定めた		結果として適切な 事業が選ばれてい ると思う		選考らしきものはし ていない	
3	じ	加展)。	2	工 妹 の 萩							C B 4 如刑 の 古 米 山 皮 < 均 段
	める	協働 に適 した事業		価 価 の評価 	点 数	5	4	3	2	1	区民参加型の事業内容で協働 に適した事業であるが、目標
	には			事業の目的や成果が明確に示され ていたか	目安	が、事後に測定可能		事業が達成された ときのイメージ		ればいいなあ」とい	が事後に測定可能な形で数値 化されていなかった。実験モ
						な形で、文章や数値 によって明確に表さ		が、具体的に文章 化され、その目標		されていた	デル的な事業としてスタート したもので明確な表現は難し
						れていた		が明確に表されて いた			い面があった。
4			5								
		協働に適した事業		手 続 の 評 協 働 の 評 事業 内容 価 の評価		5	4		2	1	基本計画や分野別計画の施策 に明確な位置づけはないが、
				基本計画や分野別計画に位置づけ られた政策や施策とあっていたか	目安	討し、位置づけが確		一部だけで検討し、特に問題ない		業の適切性の検討は	実験モデル的な事業として区 の政策に沿った事業と言え
						認された		と判断した		しなかった	る。
5			(5)								

	1		足立区に								
		STEP	だ立 おける協 働の	チェック項目				大←達成度→小			評点の理由・特記事項
			原則No			[達成できた]		[概ね達成できた]		[達成できなかった]	
		協働に適 した事業		手 続 の 評 協働 の 評 事 業 内 容 価 の 評価	点数	5	4	3	2		休遊地の問題解決に向け、区 民団体と行政が知恵を出し合
6	協働を		(3)	単独で行うより協働で行うほうが よいことが明らかになっていたか		お互いの能力を理解 し、相乗効果につい て明確になっていた		一部だけで議論、 確認した		ついて検討しなかっ	いはじめた事業である。単独 ではコストが掛かり問題解決 は図れなかった。
	はじめ	事業のニーズ		手 続 の 評 協 働 の 評 事 業 内 容 の 評価	点数	5	4	3	2		ヒートアイランド防止策や有 機性廃棄物のリサイクルを実
	めるには			地域ニーズを明確にした社会的な	達成度の 目安	受益者に関する情報 を入手・分析し、事 業に役立てた		受益者の意見を聞いたり、日頃の付き合いで得た知識 を参考にした		地域のニーズは特に 参考にしなかった	験モデル的に実践して、広く 環境問題を発信し啓発活動を 推進できた。
7			5								
		目的と成 果の設定		価 価 の評価	点级	5	4	3	2	1	行政側の支出がなく費用対効 果はすばらしい。根拠あるコ
				得られる効果、コストを勘案して 合理的に事業を計画したか	目安	当初から根拠あるコスト算定を行い、無駄な出費や人的資源に負担のない事業計画ができていた		漠然とした事業計画であったが、結果として無駄な出費や人的負担なく行えた			スト算定はしていないが、区 側の事業計画に対する理解が うすかった。
8	事業		(5)								
	計	協働形態 の選択		手 続 の 評 協働 の 評 事 業 内 容 価 の評価	点数	5	$\binom{4}{}$) 3	2	1	手探りだがお互いに知恵を出 し合い特性・能力に応じて役
9	画と着手		3)	適切な協働事業の形態を選択する ことができたか	目安	事業目的と主体の特性・能力に応じ、役割や関与の度合いが適切だった		お互いに努力が必 要だったが、何と か問題なくできた			割を選択できた。少し足立G Pへまかせきりにした節がある。
		協働相手 の選定		1曲 四部1曲	点剱	5	4	3	2		公募による事業ではないので 評価項目に馴染まない。
				事業に時限性を設定するなど、ひ ろく他の協働主体の参入の機会を 保障しているか	目安	期間を限定し、機会があるごとに複数の相手先が参入できるように検討している		検討はしたが相手 を変えていない		毎年行っていること なので期間も決めて いないし、相手を変 えることも考えてい	
10			3							ない	

			足立区に											
		STEP	おける協働の	S	チェック項目	I					大←達成度→小			評点の理由・特記事項
			原則No					 「達成	できた]		[概ね達成できた]		[達成できなかった]	
		協働相手 の選定		手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	点数	L X.E_1/9X	5	4	3	2	1	公募による事業ではないので 評価項目に馴染まない。
		の医定		事業の目的	で	らして競争			数値化されあらかじめ		結果は公表された		競争はなかった	叶
					の選定がで				、結果も公					
11			2											
		協働相手 の選定		手続の評 価	協働の評 価	事業内容 の評価	点数		5	4	3	2	1	地元住民提案によるモデル事 業であり企画書による選定は
				以外の相手	を限定する を選択しな			成すべき	を通じて育 主体である		限定することは明 確になっていた		必然性が明確にできないため、不安が	
				確になって	いたか				理的な理由 なっていた				残っている	
12	4.	协	2	工体の証	th Mar A ST	吉 # 								モデル型事業であったが、十
	事業	協働相手 の選定		1Щ		の許伽			5	4	3	2	1	分に得意分野の役割を発揮で
	の 計			した上で、	や社会的な 協働事業の			有効に発	得意分野が 揮でき期待		お互いに努力が必 要だったが、何と		期待した役割を果た す相手が選定できな	
	画と			妥当であっ	たか			した相手 た	が選定でき		か問題なくできた		かった	
13	着		(3)											
	手	目 的 ・ ゴールの		手続の評 価	協働の評価	事業内容 の評価	点数		5 (4	3	2	1	スタート時点では新しい価値 観を出すために共通認識は
		共有		事業目的、					の上充分話 文章及び数		あいまいな内容 だったが話し合い			あったが、行政側の担当者が 変わり数値による明確な共通
				共有がされ				値で明確	に表したも認識し、そ		の場で確認はした		で話し合わなかった	
14			(Ī)					れを確認し						
		役割分担		手続の評価	協働の評価	事業内容 の評価	点数		5	4	3	2	1	事業の役割分担は明確にされてあり円滑に進められた。
				limi	妥当であっ		達成度の 目安		旦を明確に 双方で合意		当初役割分担を決め、厳格に守らな		役割分担があいまい だった	CW 7 THRICKE W SAUCE
							I H A		に円滑に進		かったが、特に問題にはならなかっ		,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,	
15								2,7,7,0			た			
			4											

			足立区に	<u> </u>				<u> </u>					
		STEP	おける協働の		チェック項目	1				大←達成度→小			評点の理由・特記事項
			原則No					[達成できた]		[概ね達成できた]		[達成できなかった]	
		協定書、契約書		手続の評 価	協働の評 価	事業内容 の評価	点数	5	4	3	2	1	モデル事業だが必要な内容を 盛り込んであり双方合意の上
16			1)4)	あったか	定の合意形り		目安	考えられる必要な内容を盛り込んだ契約 や協定を双方合意の 上作成し、それに基 づき事業が進んだ		合意はしたが詳細 についてはあいま いだった		らなかった、また	作成し事業が行われた。社会情勢の変化に合わせ途中で見直しがあると良かった。
	計画	計画性		手続の評 価	協働の評価	事業内容 の評価	点数	5	4	3	2	1	足立GP側は綿密な打合せに よりスケジュールは明確で
	き着手				∘実施時期、 ニ決められて		目安	明確なスケジュール のもとに、業務の整 理と役割分担が行わ れ、進行表、分担表 が作成された上で運 営された		担当業務とその業 務の実施の時期は 理解していた			
17		± 21% = ±	4	工 仕 ○ 王	14 8 - 5	1 							
		事業の実 施		価	協働の評 価	の評価	总数	5	4	3	2	1	HPでの情報公開や公社への 業務報告はあったが、区との
18			(1)(4)	受けたり、 状況を確認	に対して、 現地に赴く 引したり、双 :行ったりし	など、その 方が自由に		進捗状況が常に把握できる状況や体制になっていた		体制 はなかったが、個人の努力により状況把握できた		問題発生後、相当時間がたつまで問題が 把握できていなかった	状況確認や意見交換は行われなかった。
	協	事業の実	0		協働の評		点数	5	4	3	2	1	基本的な体制は考えられてい
19	働事業の	施	(4)	価 予期せずに 適切に対応	 価 発生した問 ぶできたか	の評価 題・課題に		双方合意の上あらか じめ、予期せぬこと に対応できる体制が 用意されていた		体制は考えていた が、機能しなかっ た		予期できない事態に 対応する体制は作っ ていなかった	たが、特別な事故など、予期 せぬ事態に対する対応は十分 とはいえなかった。
	態	事業の実 施	\sim	手続の評 価	協働の評価	事業内容 の評価	点数	5	4	3	2	1	足立GPは明確に認識していたが、行政側の事務引継ぎが
		<i>n</i> e		事業中も、	事業の目的 と双方が十	や性格、期		関係者間で、事業目 的やゴールが文書な どで明確化され、そ れを達成しようと強 く意識していた		関係者間で、漠然 とした意識の共有 があり、大きなきい違いはなく、問 題は起こらなかっ た		関係者の中に目的や ゴールをイメージで きていない人がお り、事業に影響が出 た	上手く行っていなかった。
20		ļ	1		,	,		,					

		STEP	足立区に おける協 働の 原則No	チェック項目		[達成できた]		大←達成度→小 [概ね達成できた]		[達成できなかった]	評点の理由・特記事項
		事業の実施		手 続 の 評 協 働 の 評 事 業 内 容 の 評価 協 働 相 手 と と も に 行 う こ と に よ り 、 事 業 へ の 区 民 の 関 心 を 高 め る こ と に つ な が っ た か	達成度の	5	4	3 どちらともいえな い・変化はない	2	1 協働相手と行うこと	足立GPのコーディネートにより区内にとどまらず、全国的に関心を集め、環境に対する意識の向上に寄与した。
21	協働事業	事業の実施	3	手 続 の 評 協 働 の 評 事 業 内 容 価 の評価 協働主体双方が、事業に関して自	点数	5 常に必要なときにお	4	3 どちらかの努力に	2	1 意思疎诵ができてい	双方が自由に意見を述べる場 の用意はあったが、行政側が 必要という認識もなく行われ
22	の実態	事業の実	4	由に意見を述べることができたか 手 続 の 評 協 働 の 評 事 業 内 容	目安	互いに意見を交換で きる場がある		より、意思疎通は できた。一部の人 との意思疎通はで きた		なかった	ていなかった。 事業内容は建設的で有意義で
23		施	3	価価価価の評価建設的で有意義な活動ができたか	点 剱	5 名互いに前向きに活動でき、事業遂行を通じて組織のレベルアップが図られた	4) 3 一方のみは有意義 だった	2		あった。しかし、お互いの活動を通じて組織のレベルアップが図られたとはいえない。
24	協働事業のフ	事後評価	(5)	手 続 の 評 協働 の 評 事 業 内 容		ま定目標の達成が明確に測定され、当初の目標と合致した		3 明確な測定は行っ ていないが、概ね 妥当と感じた	2	1 全く予期せぬっ結果 で終わってしまっ た、または測定でき なかった	モデル事業だったが事業目標 以上に成果はあったといえ る。
25		事後評価		手 続 の 評 協 働 の 評 事 業 内 容 の 評価 結果的に、協働することにより双 方 の 特性が生かされ、よりよい効果が得られたか	産成度の	お互いの得意分野が 有効に発揮でき、よ りよい効果が得られ た		3 相乗効果は得られ なかったが何とか 問題なくできた	2	1 双方の特性を生かせた結果が得られなかった	

		STEP	足立区に おける協 働の 原則No	Ŧ	チェック項目			[達成で	5 2 た]		大←達成度→小 [概ね達成できた]		「法式でき	:なかった]	評点の理由・特記事項
	l zh	事業の見直し	原則NO	手続の評価	協働の評価	事業内容の評価	点数	上達成(4	[概42達成できた]	2	[達成でき	1	足立GPは振り返りを行って きたが、行政側は行っていな
26	励働事業のフ		①	カゝ	、振り返り	をしている	目安	双方が同じ で話し合っ 振り返れ なっている	って結果が		単独で行い、突合 せをしていない		振り返り わない	はあまり行	
		評価結果		手続の評 価	ΊЩ	マノ 計 1回		5		4	3	2			事業評価をはじめたばかりで 結果の公表や改善提案はこれ
27	ドバック			評価結果の参加はでき		価への区民	達成度の 目安	評価結果は区民からも案が行えなっている	改善の提		包括的な評価結果の公開はするが、区民が意見を言う機会がない		評価したし、公表し		から考える。
	£	・ク個数		7	1 4	1 3									
	, エッ	ク値数		個	個	個			個点	個点		個点		個点	
	集計		総点	数(A)		評点(B)		達成率(B	S/A*100)						
					①手続き(の評価		5 ×	7 = 3 5 点		25点		7	1. 42%	
					②協働の	評価		5 × 1 4	4 = 7 0 点		5 8 点		8 2	2. 85%	
					③事業内	容の評価		5 × 1 :	3 = 6 5 点		5 3 点		8	1. 53%	

まちづくり公社

			足立区に								
		STEP	おける協 働の	チェック項目				大←達成度→小			評点の理由・特記事項
			原則No			[達成できた]		[概ね達成できた]		[達成できなかった]	
		協働事業 の導入		価 一 の評価	点 叙	5	4	3	2	1	評価不能(地元区民団体の提 案によるモデル事業のため、
				事業に関する情報は、誰にでもわ かりやすく提供されていたか	目安	事業の情報を早くか ら多くの人の目に触		相手が決まる前に 区報などの一部の メディアには公表		特定の団体しか事業 を知り得ることがで きなかった	評価に馴染まない項目である)
1			2			れるようにした		した			
		協働事業 の導入		伽 伽 の評価	点 叙	5	4	3	2	1	評価不能(地元区民団体の提 案によるモデル事業のため、
				区があるテーマについての協働事業提案を募集した際の、公募方法 は適切であったか		毎回、事業を始める 前に広く区民が事業 を知り得るようにし		複数の対象団体等 の可能性を検討し た		公募も、複数の協働 相手の可能性も検討 しなかった	評価に馴染まない項目である)
2			2			た					
		協働事業 の導入		1位 位 の評価	点 数	5	4	3	2	1	評価不能(地元区民団体の提 案によるモデル事業のため、
	協働				達成度の 目安	選考体制、基準、対 象などを定めた		結果として適切な 事業が選ばれてい ると思う		選考らしきものはし ていない	評価に馴染まない項目である)
3	割を		2								
	はじ	協働に適 した事業		価 価 の評価	点 级	5	4	3	2	1	地元区民団体からの企画書 に、事業の必要性や事後の確
	める			事業の目的や成果が明確に示され ていたか		成果に関する目標が、事後に測定可能な形で、文章や数値		事業が達成された ときのイメージ が、具体的に文章		ればいいなあ」とい	認が可能な目標が言葉により明記されていた。また、区民参加型の事業内容や近隣対策
	には					な形で、又早や数値 によって明確に表されていた		が、具体的に又早 化され、その目標 が明確に表されて		う日保か一通り快的されていた	等が掲げられていることか ら、適切な運営が期待でき
4			(5)					いた			た。
		協働に適した事業	<u> </u>	手 続 の 評 協 働 の 評 事 業 内 容 の 評価	点数	5	4	3	2		当時の基本計画等には明確な 位置づけはないが、プチテラ
		072 476		基本計画や分野別計画に位置づけ				一部だけで検討		政策との整合性や事	ス事業の目的(緑化促進・地
				られた政策や施策とあっていたか	目安	討し、位置づけが確 認された		し、特に問題ない と判断した			域コミュニティ促進)を含む 事業であり、モデル事業とし
						#C C 4 6 7 C		2 1,191 3 12			て実施することに関して庁内合意と議会報告を行っていた
											ことから、実験的事業として の位置づけは有していた。
5			(5)								

		STEP	足立区における協働の	チェック項目				大←達成度→小			評点の理由・特記事項
	協働	協働に適した事業	原則No	手 続 の 評 協 働 の 評 事 業 内 容 の 評 価 単独で行うより協働で行うほうがよいことが明らかになっていたか	達成度の	[達成できた] 5 お互いの能力を理解 し、相乗効果につい て明確になっていた	4	[概ね達成できた] 3 一部だけで議論、 確認した	2		区民団体の全ての能力を把握 していたわけではないが、区 民団体の自立の促進や、区・ 公社のコスト削減、柔軟な環 境対策の実施が期待できた。
6	■をはじめるには	事業のニーズ	3	手 続 の 評 協 働 の 評 事 業 内 容 の評価 地域ニーズを明確にした社会的な課題を解決する事業内容か	点 叙	受益者に関する情報を入手・分析し、事業に役立てた		3 受益者の意見を聞いたり、日頃の付き合いで得た知識を参考にした	2	参考にしなかった	環境対策については情報収集・分析が行われ、取り組み内容が計画されていた。また、地域コミュニティ再生や行政ストの縮減が必要なことは既に明らかであった。また、事業計画は、これらを解決する取り組み内容となっていた。
7	事	目的と成果の設定	(5)	手続の評価 協働の評事業内容の評価 得られる効果、コストを勘案して合理的に事業を計画したか	点数 達成度の 目安	5 当初から根拠あるコスト算定を行い、無 駄な出費や人的資源 に負担のない事業計 画ができていた		3 漠然とした事業計 画であったが、結 果として無駄な出 費や人的負担なく 行えた	2	1 適切な規模が想定できず、結果として予 算不足や人手不足で	環境対策や地域コミュニティの活性化といった得られる効果に対する根拠あるトータルコストの算定は行っていなかったが、公社の支出がなく、また、区が出費していた草刈費節減という自治体側のコストダウンも期待できた。
9	業の計画と着手	協働形態の選択	(5) (3)	手 続 の 評 協働 の 評 事 業 内 容 の 評価 適切な協働事業の形態を選択する ことができたか	達成度の	事業目的と主体の特性・能力に応じ、役割や関与の度合いが適切だった		3 お互いに努力が必 要だったが、何と か問題なくできた	2	担がうまくいかな かった	本事業では、相手先の自主自立の活動を保証することが重要であり、このことをふまえると、それぞれの特性・能力に応じた協働の役割分担が選択できた。
10		協働相手の選定	3	手続の評 価協働の評 価事業内容 の評価事業に時限性を設定するなど、ひろく他の協働主体の参入の機会を 保障しているか	点数 達成度の	5 期間を限定し、機会 があるごとに複数の 相手先が参入できる ように検討している		3 検討はしたが相手 を変えていない		1	

			足立区に								
		STEP	おける協働の	チェック項目				大←達成度→小			評点の理由・特記事項
			原則No			[達成できた]		[概ね達成できた]		[達成できなかった]	
		協働相手 の選定		手続の評 協働の評 事業内容 の評価		5	4	3	2		評価不能(地元区民団体の提 案によるモデル事業のため、
				事業の目的や性格に照らして競争 原理を確保した公正で透明性のあ る協働相手の選定ができていたか	目安	客観的な数値化された基準があらかじめ公表され、結果も公表された		結果は公表された		競争はなかった	評価に馴染まない項目である)
11			2								
		協働相手 の選定		手続の評協働の評 事業内容 価 の評価		5	4	3	2		地元住民提案による市民自立 型モデル事業であることを考
				協働の相手を限定する場合、それ 以外の相手を選択しない理由は明 確になっていたか		当該事業を通じて育 成すべき主体である ことの合理的な理由 が明確になっていた		限定することは明 確になっていた		必然性が明確にできないため、不安が 残っている	慮すると、相手先の選定は合理的であった。
12			2								
	事業	協働相手 の選定		手 続 の 評 協 働 の 評 事 業 内 容		5	4	3	2	1	区民団体提案型事業であった が、環境に関する知識・経験
	の計画と			相手の特性や社会的な役割を理解 した上で、協働事業の相手として 妥当であったか		お互いの得意分野が 有効に発揮でき期待 した相手が選定でき た		お互いに努力が必 要だったが、何と か問題なくできた		す相手が選定できな	と先見性を持つ地元NPO団 体であり、適切なパートナー であると判断できた。
13	着手		3								
	十	目 的 ・ ゴールの		手続の評協働の評 事業内容の評価	点级	5	4	3	2	1	事業計画の段階では、双方の 話し合いにより、事業目的と
		共有		事業目的、事業で達成したいゴールについて、関係者の間で意識の 共有がされていたか	目安	双方同席の上充分話 し合い、文章及び数 値で明確に表したも のを共通認識し、そ れを確認した		あいまいな内容 だったが話し合い の場で確認はした		識はあったが、両者	達成したいゴールについての 共通認識が十分行われてい た。
14		49 1 - 1 - 1 - 1	1								
		役割分担		手 続 の 評 協 働 の 評 事 業 内 容	点级	5	4	3	2	1	区との役割分担・相手方との 役割分担はそれぞれ明確であ
				役割分担は妥当であったか	達成度の目安	役割分担を明確に し、当初双方で合意 した通りに円滑に進 められた		当初役割分担を決め、厳格に守らなかったが、特に問題にはならなかった			り、当初設定した役割分担に より円滑に進められた。
15			4					,_			

	1		足立区に											
		STEP	おける協働の	=	チェック項目	1					大←達成度→小			評点の理由・特記事項
			原則No					[達成で	きた]		[概ね達成できた]		[達成できなかった]	
		協定書、契約書		手続の評 価	協働の評 価	事業内容 の評価	点数	5		4	3	2	1	必要な内容を盛り込んだ管理 協定を締結し、この協定に基
16			(1)(4)	あったか		成は適切で	目安	考容を協定したが、というでは、というでは、これのでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これでは、これ	んだ契約 方合意の それに基		合意はしたが詳細 についてはあいま いだった		契約書や協定書は作 らなかった、また は、作ったが細かい 内容記載しなかった	づき適切かつ円滑に事業が行 われてきた。
	計画	計画性		手続の評 価	協働の評 価	事業内容 の評価	点数	5		4	3	2	1	区民団体では、事業計画等に ついて綿密に打合せされてお
	と着手				実施時期、 決められて		目安	明確なスケ、分理れたとと割っては、のもとのでは、のでは、のでは、のでは、のでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、ないでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、のでは、の	業務の整 担が行わ 、分担表		担当業務とその業 務の実施の時期は 理解していた		で、担当者不在、特定の個人への業務集	り、団体公式サイトで公表されていたが、定期的な連絡調整があまり行われていなかったため、情報の共有が不足していた。
17		事業の実	4	手結の証	お無の証	事業内容				$\overline{}$				相手方から毎月業務報告書に
		声来の天		一価	価	ず来内存の評価	点数	5	(4) 3	2	1	よる報告を受けており、行事
18			(1)(4)	受けたり、 状況を確認	に対して、	中間報告を など、その 方が自由に		進 捗 状 況 が できる 状況 なっていた			体制 はなかったが、個人の努力により状況把握できた		間がたつまで問題が	に関してはHPで情報公開が 行われていた。しかし、現地 訪問や意見交換は行わなかっ た。
	協	事業の実 施		手続の評価	協働の評価	事業内容 の評価	点数	5		4	3	2	1	管理運営協定書に基本的な規 定を設けていたが、具体的な
19	働事業の	加	4		発生した問	の計画 題・課題に	達成度の 目安	双方合意の じめ、予期 に対応でき 用意されてい	せぬこと る体制が		体制は考えていた が、機能しなかっ た			連絡調整方法を定めていなかったため、予期せぬ事項への対応は十分とはいえなかった。
	態	事業の実 施		手続の評価	協働の評価	事業内容 の評価	点数	5		4	3	2	1	開設当時と区民団体は強く認識していたが、区・公社側で
				事業中も、	事業の目的 :を双方が十	や性格、期		関係者間で 的やず明確 がで達成してい く意識してい	が文書な され、そ ようと強		関係者間で、漢然 間で、英名 間で、英名 で、数 がありは はないない は に いな いな いな いな いな いな い い は い た い た れ た れ た れ た れ た れ た れ に れ た れ た れ に れ た れ に れ に		ゴールをイメージで	十分な事務引継を行っていな かったため、目的・性格、期 待する成果の認識が低下して
20			1)								. =			

	1		足立区に								
		STEP	おける協働の	チェック項目				大←達成度→小			評点の理由・特記事項
			原則No			[達成できた]		[概ね達成できた]		[達成できなかった]	
		事業の実 施		手 続 の 評 協働 の 評 事 業 内 容 の 評 価 の 評 価	点 数	5	4	3	2		相手方の魅力的で多彩な事業 活動により、区内外の参加者
				協働相手とともに行うことにより、事業への区民の関心を高めることにつながったか	目安	相手先のおかげで、 区民の事業への参加 者が増えた、関心が 増した		どちらともいえな い・変化はない		により、関心が低下	が増え、環境に対する意識の 向上に寄与してきた。また、 足立区と六町のイメージアッ プにも多大な貢献があった。
21	協		3								
	事	事業の実 施		手 続 の 評 協 働 の 評 事 業 内 容 の 評 価		5	$\bigcirc 4$	3	2	1	自由且つ対等な意見交換の場 は十分用意されていたが、問
	業の実態			協働主体双方が、事業に関して自由に意見を述べることができたか		常に必要なときにお 互いに意見を交換で きる場がある		どちらかの努力に より、意思疎通は できた。一部の人 との意思疎通はで きた		なかった	題が生じることもなく、意見 交換が必要という認識もな かったため、殆ど行われてい なかった。
22		事業の実施	4	手 続 の 評 協 働 の 評 事業 内容 価 の の 評価	点数	5	4) 3	2	1	協働事業そのものは、建設的 であり有意義であった。ま
		<i>7</i> .2		建設的で有意義な活動ができたか	目安	お互いに前向きに活 動でき、事業遂行を 通じて組織のレベル アップが図られた		一方のみは有意義 だった			た、社会実験の域は出ていないが、公共施設管理運営の一つのモデルを示すことができた。
23		事後評価	3	手続の評協働の評事業内容	占粉	5	4	3	2	1	事業目標は十分達成している
24	協働事業のフ			事業の目標は妥当なものであった	達成度の)		明確な測定は行っていないが、概ね妥当と感じた		全く予期せぬっ結果 で終わってしまっ た、または測定でき	とともに、団塊の世代や高齢者・児童の居場所づくりにも 貢献するなど、区内外のみならず、国内外からも注目され る成果をあげた。
	 イ 	事後評価		手 続 の 評 協働の評事業内容 価 の評価	点数	5	4	3	2		未利用地の暫定提供、区・公 社の緩やかな関与といった面
	-ドバック			結果的に、協働することにより双 方の特性が生かされ、よりよい効 果が得られたか		お互いの得意分野が 有効に発揮でき、よ りよい効果が得られ た		相乗効果は得られ なかったが何とか 問題なくできた		双方の特性を生かせ	は効果をあげ、自主自立の市民事業が成立してきた。
25			3								

		STEP	足立区に おける協 働の 原則No		チェック項目			[達成で	·[きた]		大←達成度→小 [概ね達成できた]		[達成でき	:なかった]	評点の理由・特記事項
	1.4.	事業の見		手続の評価	協働の評 価	事業内容 の評価	点数	5	j	4	3	2		1	協働事業参加者がそれぞれの 立場・それぞれの方法で振り
26	協働事業のフ	直し	①	事業終了後か	、振り返り	をしている	目安	双方が同じで話し合っ振り 返れなっている	って結果が		単独で行い、突合 せをしていない		振り返り	はあまり行	返りを行ってきたが、一堂に 会して話し合いを行ってはい なかった。
	イ	評価結果		手続の評価	協働の評価	事業内容 の評価	点数	5	j	4	3	2)	1	それぞれの立場と方法による 振り返りだけ実施してきたも
27	-ドバック				公表や、評		達成度の 目安	評価結果は 区民からも 案が行え なっている	改善の提		包括的な評価結果 の公開はするが、 区民が意見を言う 機会がない		評価したこし、公表し	だけで満足 ていない	のであり、指標を使った評価 をはじめたばかりである。また、評価への区民参加や結果 公表はこれまで行っていない。
	r	ь /m w.		7	1 4	1 3									
	「エッ	ク個数		個	個	個			個点	個点		個点		個点	
						集計		総点	数(A)		評点(B)			S/A*100)	
		①手続きの評価		5 ×	7 = 3 5 点		28点		80.00%						
	②協働の評価		5 × 1 4	4 = 7 0 点		63点		90.00%							
	③事業内容の評価		5 × 1 3	3 = 6 5 点		56点		8 (6. 15%						

足立グリーンプロジェクト

			ㅁㅗㄷ;~	I							· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
		STEP	足立区に おける協 働の	チェック項目				大←達成度→小			評点の理由・特記事項
			原則No			[達成できた]		[概ね達成できた]		[達成できなかった]	
		協働事業 の導入		価 一	点	5	4	3	2	1	公募による事業ではないので 評価項目に馴染まない。
				事業に関する情報は、誰にでもわ				相手が決まる前に		特定の団体しか事業	
				かりやすく提供されていたか	目安	事業の情報を早くか		区報などの一部の		を知り得ることがで	
1			2			ら多くの人の目に触 れるようにした		メディアには公表 した		きなかった	
·		協働事業 の導入	2)	手続の評協働の評事業内容 価	点数	5	4	3	2	1	公募による事業ではないので 評価項目に馴染まない。
				区があるテーマについての協働事		毎回、事業を始める		複数の対象団体等		公募も、複数の協働	
				業提案を募集した際の、公募方法	目安	前に広く区民が事業		の可能性を検討し		相手の可能性も検討	
١,				は適切であったか		を知り得るようにし		た		しなかった	
2	-	協働事業	2	手続の評協働の評事業内容		<i>1</i> C					公募による事業ではないので
	協	の導入		価価の評価	点数	5	4	3	2	1	評価項目に馴染まない。
	働					選考体制、基準、対		結果として適切な		選考らしきものはし	
	を				目安	象などを定めた		事業が選ばれてい		ていない	
3	はい		(2)					ると思う			
	しめる	協働に適した事業		手 続 の 評 協 働 の 評 事 業 内 容 の 評価	点数	5	4	3	2	1	実験モデルとしての取り組みであり、ヒートアイランド、
	に			事業の目的や成果が明確に示され				事業が達成された			地球温暖化、環境教育拠点な
	は			ていたか	目安	が、事後に測定可能		ときのイメージ			ど大まかな目的は設定されて
						な形で、文章や数値 によって明確に表さ		が、具体的に文章 化され、その目標			いたが、数値や成果指標など は設定できなかった。
						れていた		が明確に表されて		310 CV12	は放足できなかろた。
						40 C		いた			
4			5								
		協働 に適 した事業		価 一個 の評価	点数	5	4	3	2	1	プチテラス設置要綱に基づい て実施している事業であり、
				基本計画や分野別計画に位置づけ				一部だけで検討			施策内に位置づけられてい
				られた政策や施策とあっていたか	目女	討し、位置づけが確 認された		し、特に問題ない と判断した		業の適切性の検討は しなかった	ত :
						mr C 407C				U A N D IC	
5			5								

			足立区に								
		STEP	足立区に おける協 働の	チェック項目				大←達成度→小			評点の理由・特記事項
			原則No			[達成できた]		[概ね達成できた]		[達成できなかった]	
		協働に適 した事業		手 続 の 評 協 働 の 評 事 業 内 容		5	4	3	2	1	区画整理事業用地の管理の視 点と現場からの活用の視点に
	協働を			単独で行うより協働で行うほうが よいことが明らかになっていたか		お互いの能力を理解 し、相乗効果につい て明確になっていた		一部だけで議論、確認した			は大きな乖離があったが、単 独での解決は限界があった
6	とは		3								
	じめ	事 業 の ニーズ		手 続 の 評 協 働 の 評 事 業 内 容 の 評価		5	4	3	2	1	環境問題の関心の高まりは世 界的なものであり、地域での
	るには			地域ニーズを明確にした社会的な 課題を解決する事業内容か	達成度の 目安	受益者に関する情報 を入手・分析し、事 業に役立てた		受益者の意見を聞いたり、日頃の付き合いで得た知識 を参考にした		地域のニーズは特に 参考にしなかった	具体的な活動も必要とされて いた
7		n 44) 4	5					を参与にした			S# #N 1 1 . k 12 #4) 1 ##
		目的と成 果の設定		手続の評協働の評事業内容価の評価	点数	5	4	3	2	1	漠然とした目的は持っていた が、しっかりとした事業計画
8			(5)	得られる効果、コストを勘案して 合理的に事業を計画したか	目安	当初から根拠あるコスト算定を行い、無駄な出費や人的資源に負担のない事業計画ができていた		漠然とした事業計画であったが、結果として無駄な出費や人的負担なく行えた		適切な規模が想定できず、結果として予算不足や人手不足で 事業に支障をきたした	はなかった。
	+	協働形態 の選択		手 続 の 評 協働 の 評 事 業 内 容 の 評価	点数	5	$\begin{pmatrix} 4 \end{pmatrix}$	3	2	1	区が土地を提供し、公社が仕組みを提供し、足立GPが運営
	事業の計画と着手			適切な協働事業の形態を選択することができたか	目安	事業目的と主体の特性・能力に応じ、役割や関与の度合いが適切だった		お互いに努力が必 要だったが、何と か問題なくできた			ノウハウを提供するという点においては適切だった。区や公社から管理費などよりコミットする必要性も指摘度さが、その分運営の自由度があったため、創意工夫ができた
9			3						_		
		協働相手 の選定		手続の評 協働の評 事業内容の評価		5	4	3	2	1	公募による事業ではないので 評価項目に馴染まない。
				事業に時限性を設定するなど、ひ ろく他の協働主体の参入の機会を 保障しているか		期間を限定し、機会があるごとに複数の相手先が参入できるように検討している		検討はしたが相手 を変えていない		毎年行っていること なので期間も決めて いないし、相手を変 えることも考えてい	
10			3							ない	

			足立区に	1							
		STEP	だび区に おける協 働の					大←達成度→小			評点の理由・特記事項
			原則No			[達成できた]		[概ね達成できた]		[達成できなかった]	
		協働相手 の選定		手続の評 協働の評 事業内容 の評価	点数	5	4	3	2	1	公募による事業ではないので 評価項目に馴染まない。
				事業の目的や性格に照らして競争 原理を確保した公正で透明性のあ る協働相手の選定ができていたか	目安	客観的な数値化された 基準があらかじめ 公表され、結果も公		結果は公表された		競争はなかった	
11			2			表された					
		協働相手 の選定		手続の評協働の評 事業内容 価 の評価		5	4	3	2	1	地元住民提案によるモデル事 業であり企画書による選定は
				協働の相手を限定する場合、それ 以外の相手を選択しない理由は明 確になっていたか	目安	当該事業を通じて育 成すべき主体である ことの合理的な理由 が明確になっていた		限定することは明 確になっていた		必然性が明確にできないため、不安が 残っている	合理的であった。
12			2			. ,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,					
	事業	協働相手 の選定		手 続 の 評 協 働 の 評 事 業 内 容		5	4	3	2	1	土地の所有者は足立区で、仕 組みの所有者は公社であった
	の計画と			相手の特性や社会的な役割を理解 した上で、協働事業の相手として 妥当であったか		お互いの得意分野が 有効に発揮でき期待 した相手が選定でき た		お互いに努力が必 要だったが、何と か問題なくできた		期待した役割を果た す相手が選定できな かった	ことから、選択の余地はなかった
13	着手		3								
	于	目 的 ・ ゴールの		手続の評協働の評 事業内容 価 の評価		5	$\binom{4}{4}$	3	2	1	スタート時点では新しい価値 観を出すために共通認識は
		共有		事業目的、事業で達成したいゴールについて、関係者の間で意識の 共有がされていたか	目安	双方同席の上充分話 し合い、文章及び数 値で明確に表したも		あいまいな内容 だったが話し合い の場で確認はした			あったが、行政側の担当者が 変わり数値による明確な共通
14			①			のを共通認識し、そ れを確認した					
		役割分担		手 続 の 評 協 働 の 評 事 業 内 容		5	4	3	2	1	事業の役割分担は明確にされ てあり円滑に進められた。
						役割分担を明確に し、当初双方で合意 した通りに円滑に進 められた		当初役割分担を決め、厳格に守らなかったが、特に問題にはならなかっ		役割分担があいまい だった	
15			4					た			

			足立区における協					大←達成度→小			
		STEP	働の	チェック項目							評点の理由・特記事項
		I# # #	原則No			[達成できた]		[概ね達成できた]		[達成できなかった]	Mr D - 11 b - 2 1 1 b - 2 b Mr
		協定書、 契約書		手続の評協働の評事業内容 価 の評価		5	4	3	2	1	簡易ではあるが、協定書を策 定した。足立区は協定に入っ
				契約や協定の合意形成は適切で				合意はしたが詳細			ておらず、その点は問題もあ
				あったか	目安	容を盛り込んだ契約		についてはあいま		らなかった、また	る。
	事業					や協定を双方合意の 上作成し、それに基		いだった		は、作ったが細かい 内容記載しなかった	
	兼の					ゴ 1				円谷 記載 しながった	
16	計		14			っしず 木 / <i>と / U / C</i>					
	画	計画性		手続の評協働の評事業内容 価	点数	5	4	3	2	1	計画はHPで公開していて誰で もアクセスできる状態だった
	と着			事業計画や実施時期、スケジュー	達成度の	明確なスケジュール		担当業務とその業		実施時期が不明確	が、公社には報告書のみ提出
	手			ルが明確に決められていた		のもとに、業務の整		務の実施の時期は			していた。区と公社の調整に
	'					理と役割分担が行わ		理解していた			ついては外部のことなのでわ
						れ、進行表、分担表				中など、全体の進捗	からない。
						が作成された上で運 営された				に影響が出ていた	
17			4			当られいに					
		事業の実 施		手 続 の 評 協 働 の 評 事 業 内 容		5	4	3	2	1	中間報告は求められていない が、まちづくり大学等で発表
				事業の進捗に対して、中間報告を				体制はなかった			していて、中間報告の代わり
				受けたり、現地に赴くなど、その	目安	できる状況や体制に		が、個人の努力に			となっている。区の職員(ま
				状況を確認したり、双方が自由に		なっていた		より状況把握でき			ちづくり課以外も含む)が不 定期にたちより、意見交換し
				意見交換を行ったりしたか				/~		た	圧期にたりより、息見父撰し ている
18		± 114	14	~ /t o == t u a == t u L t							
	協	事業の実 施		手 続 の 評 <mark>協 働 の 評 事 業 内 容</mark> 価 の評価	点数	5	4	3	2	1	保険加入、救急箱の設置、熱中症対策などを事前に取り決
	働			予期せずに発生した問題・課題に	達成度の	双方合意の上あらか		体制は考えていた		予期できない事態に	め、具合が悪くなった職員へ
	事			適切に対応できたか	目安	じめ、予期せぬこと		が、機能しなかっ			の対応もできた。課題につい
	業					に対応できる体制が		た		ていなかった	ては全体会で共有し、事前に
19	の		(4)			用意されていた					策を講じた
1.0	実態	事業の実	9	手続の評協働の評事業内容	L- 1//	-				-	足立GPは事業開始時から認識が
	呢	施		1 1		5	$\frac{4}{}$) 3	2	1	あったが、公社や区との共有は十
				事業中も、事業の目的や性格、期				関係者間で、漠然		関係者の中に目的や	分ではなかったかもしれない。担
				待する成果を双方が十分共有し、	目安	的やゴールが文書な		とした意識の共有		ゴールをイメージで	当者が変わるごとに対応するには 限界も感じる。区・公社内部の問
				常に認識していたか		どで明確化され、そ れを達成しようと強		があり、大きな食 い違いはなく、問		きていない人がおり、事業に影響が出	題。まちづくり課の新規担当者が
						れを達成しよりと強 く意識していた		題は起こらなかっ		り、尹耒に影響が山た	4月に車で見学に来ることもあっ
						へ心味 して (・/こ		と と		/-	たが、あのようなことはルー
											ティーン化してもよいのではない か?
20		ļ	1								~ .

			足立区に			<u> </u>					
		STEP	ポける協 働の	チェック項目				大←達成度→小			評点の理由・特記事項
			原則No			[達成できた]		[概ね達成できた]		[達成できなかった]	
		事業の実 施		手 続 の 評 協働 の 評 事 業 内 容 価 の評価		5	4	3	2	1	協働事業であるということ に、大きな価値があった
				協働相手とともに行うことにより、事業への区民の関心を高めることにつながったか		相手先のおかげで、 区民の事業への参加 者が増えた、関心が 増した		どちらともいえな い・変化はない		協働相手と行うこと により、関心が低下 した	
21	協		3								
	事	事業の実 施		手 続 の 評 協 働 の 評 事 業 内 容 の 評価		5	4	3	2	1	協働主体だけでなく、参加者 に対しても自由に意見が述べ
22	業の実態		4)	協働主体双方が、事業に関して自由に意見を述べることができたか	目安	常に必要なときにお 互いに意見を交換で きる場がある		どちいの努力に より、意思疎通し できた。一部 との きた きた		意思疎通ができていなかった	る機会が設定されている。質 問の意味が良くわからない。
		事業の実 施		手続の評協働の評 事業内容 価 の評価	点数	5	4	3	2	1	用地を管理するという視点と 活用する視点の明らかな差を
				建設的で有意義な活動ができたか		お互いに前向きに活動でき、事業遂行を 動じて組織のレベル アップが図られた		一方のみは有意義 だった		双方とも当初想定し ていた活動とはなら ず、不満が残った	証明できた
23		事後評価	3	工 使 o 型 切 料 o 型 专 类 中 向							<u></u> 目標以上の成果があった
	l	争拨評価		手 続 の 評 協 働 の 評 事 業 内 容		5	4	3	2	1	, , , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
	協働事業の			事業の目標は妥当なものであった か		設定目標の達成が明確に測定され、当初の目標と合致した		明確な測定は行っ ていないが、概ね 妥当と感じた		全く予期せぬっ結果 で終わってしまっ た、または測定でき なかった	
24	フィ	事後評価	5	手続の評 <mark>協働の評事業内容</mark>	⊢ ₩.	5				1	双方の特性を活かし、未利用
	 			価 の評価 結果的に、協働することにより双	点 数		4	3 相乗効果は得られ	2	1 双方の特性を生かせ	地の暫定利用を効果的に進め
	- バック			方の特性が生かされ、よりよい効果が得られたか		有効に発揮でき、よりよい効果が得られ た		おかったが何とか 問題なくできた		た結果が得られなかった	- 2 C C N- C C IC 0
25			3								

			足立区に おける協 働の	=	チェック項目	1					大←達成度→小				評点の理由・特記事項
			度則No					 [達成て	: :きた]		[概ね達成できた]		[達成でき	なかった]	
	協	事業の見直し		手続の評価	協働の評 価	事業内容 の評価	点数	5		4	3	2		1	足立GPは振り返りを行って きたが、行政側は行っていな
	動事業の			事業終了後か	、振り返り	をしている	達成度の 目安	双方が同じ で話し合っ 振り返れ なっている	って結果が		単独で行い、突合 せをしていない		振り返り わない	はあまり行	
26	フ	表示人	1	- 4 0 ET	14 KI 0 3T	+ * + + +									+ W-T /T & 11 10 12 & 17 2 10
	1	評価結果		手続の評価	勝働の評価	事業 円谷の評価	点数	5	j	4	3	2)	1	事業評価をはじめたばかりで 結果の公表や改善提案はこれ
	ドバック			評価結果の参加はでき		価への区民	達成度の 目安	評価結果は 区民からも 案が行え なっている	改善の提		包括的な評価結果 の公開はするが、 区民が意見を言う 機会がない		評価したし、公表し		から考える。
27			2												
4	F = "	ク個数		7	1 4	1 3									
	. <u>-</u> - У	ノ胆奴		個	個	個			個点	個点		個点		個点	
						集計		総点	数(A)		評点(B)		達成率(日	B/A*100)	
					①手続き(の評価		5× 7=35点		į	2 7 点		77.14%		
			②協働の評価		 5×14=70点		į	65点		92.85%					
	③事業内容の評価		5 × 1 ;	3 = 6 5 点	į	6 2 点		9	5. 38%						

2-2 協働における課題

評価を通じて見えてきた課題について、本事業の優れていたこと、改善すべきこと、今後の協働事業に期待することに分類し、各々の立場で示します。

足立区都市整備部まちづくり課のコメント

優れていた	◆雑草の生い茂る区有地を環境問題を意識し、憩いの場に活用する
と思われる	ことに積極的に取り組んだこと。
こと	◆六町地区だけでなく全国的に情報を発信し、環境問題への関心を
	高めたこと。
	◆アイディアが豊富でコーディネートが優れていたこと。
改善すると	◆行政側と定期的に会合を持ち情報交換ができると、事業への理解
良くなるこ	度が高まる(人事異動での理解度が薄れていった。)。
と	◆事業途中での評価を実施できれば、より良い事業展開ができる。
今後の協働	このモデル事業をコミュニティガーデンに活かし、区民、行政、企
に期待する	業のパートナーシップにより、明るく元気な地域社会づくりに展開
こと	していけると良い。

財団法人足立区まちづくり公社のコメント

優れていた	◆協働という概念が確立していない時期に、区民提案事業の実現に
と思われる	取り組んだこと。
こと	◆区の施策を最大限活用し、区民団体の自立を促進しようとした。
	◆環境という異分野にまちづくりセクションが取り組んだこと。
	◆区民団体の自立促進に向けた役割分担と適切な関与ができたこ
	と。
改善すると	◆定期会合や積極的な交流により、事業への理解度や事業の達成意
良くなるこ	識が高まる(突発事項にも対処できる)。
ک	◆定期的な事業評価や評価結果に関する話し合いと事業の見直しに
	より、バランスの取れた事業展開が実現できる(外部評価も効果
	あり)。
今後の協働	区・公社職員は定期的に異動があるため、後任への事務引継ぎは重
に期待する	要である。そこで、後任職員への十分なレクチャーと、協働に関す
こと	る職員の見識と実務経験を高める取り組み(協働の体験と学習)を
	行うことが欠かせない。また区民団体は、面倒でも異動時期には後
	任職員との交流を積極的に図るようにする必要がある。

足立グリーンプロジェクトのコメント

優れていた と思われる こと	事業開始前は、ヒートアイランド対策をはじめとして地域における 環境教育の拠点作りに主眼が行われていたが、やってみて地域づく り、市民のエンパワーメントへの効果が極めて高いことがわかった
改善すると 良くなるこ と	行政も現場視点が必要。足立 GP は自立がテーマであったために、ことさら行政に現場に足を運ぶよう求めなかったが、区や公社に現場を学習してもらうという視点も必要だったかもしれない。事業開始時から考えると、協働の次元が次のステップに移っている。
今後の協働に期待すること	実験モデルが実験だけで終わらず、制度を含め、この事業がどこで もできるよう仕組みづくりが必要。

2-3 まとめ

本事業は、プチテラスという公共施設に環境というテーマを与え、モデル的に提案型協働事業を展開したものです。事業評価は「あだち協働ガイドライン」の評価シートに沿って評価しましたが、公募による事業ではないのでチェック項目がなじまないことが明らかになり、提案型には、満足度・組織充実度などの別の指標が必要ではないかと感じました。

評価を通して、環境対策や地域コミュニティの活性化に優れた事業であることが確認されましたが、お互いが学びあい、確認し合い、活発に意見交換をするなどのパートナーシップにもう少し努力が必要であったと思います。特に区・公社は人事異動による後任への引継ぎは重要であり、現場に足を運び交流を積極的に図る必要があるでしょう。

事業評価結果を見ると、手続き・協働・事業内容の3項目のバランスがよく 事業スタートから5年余りが経過しますが、年々事業の次元がステップアップ しています。また、協働事業にはコーディネート力の必要性とPDCAのサイ クルを回すことの重要性を感じました。本事業が、実験で終わらずに、今後に 活かされることを期待します。